

変更後

表2 舗装厚表

①舗装マニュアル（新潟県）に合わせ舗装構成を見直しました。

種別	コンクリート舗装		アスファルト舗装			インターロッキングブロック舗装		
	コンクリート	歩道路盤	密粒度アスコン	粗粒度アスコン	歩道路盤	ブロック	瀝青安定処理	歩道路盤
I種	15cm	10cm	5cm	—	25cm	8cm	—	15cm
II種	20cm	20cm	5cm	5cm	25cm	8cm	6cm	15cm
III種	25cm	25cm	5cm	10cm	30cm	8cm	10cm	20cm

※削除

- 種別は、乗り入れる車種の最大のものを適用してください。
- コンクリート舗装の場合、コンクリート舗装要綱に基づき行ってください。生コンクリートの呼び強度（設計基準強度）は、 $\sigma 28 = 21 \text{ N/mm}^2$ 以上とし、メッシュ筋を設置してください。
- アスファルト舗装の場合は、アスファルト舗装要綱に基づき行ってください。
- 路床土は、**CBR 20%以上の良質土**を使用してください。
- ① **インターロッキングブロックのサンドクッション厚さは2cmです。**
- ② **インターロッキングブロックは道路管理者がやむを得ないと判断した場合、原状に馴染むカラーアスファルト舗装（舗装構成はアスファルト舗装）でも施工できます。**
- 施工箇所付近で道路改良計画等がある場合は、その計画等に基づき施工を指示する場合がありますので、道路管理者と事前に協議が必要です。

②現状がインターロッキングブロックでやむを得ない場合はカラー舗装でも施工できるようにしました。

表3 側溝表

種別	側溝本体	側溝蓋
I種	既設側溝の使用可	コンクリート製、グレーチング（2t対応以上）
II種	既設側溝が現場打ち若しくは歩道用の場合は、車道用の落蓋型側溝又は自由勾配側溝（横断用）を新設する。	コンクリート製、グレーチング（25t対応）
III種		

- I種であっても自動車の出入回数が多い場合はII種、III種の基準を適用してください。
- 原則として、側溝蓋にツバ付タイプのグレーチングや縞鋼板の使用は認められません。
- コンクリート製の側溝蓋を5m以上設置する場合は、5m毎にグレーチングの側溝蓋を1枚設置してください。
- 側溝を新設する場合で、駐車場等の敷地内除雪を重機によって行う場合は、横断用の側溝（角欠け防止用のアングル補強付き）にしてください。

変更前

表2 舗装厚表

種別	セメントコンクリート舗装		アスファルト舗装			
	コンクリート	路盤	密粒度アスコン	路盤（φ40~0mm）		路床
		粒度調整 砕石		クラッシュ ヤーラン		
I種	15cm	15cm	5cm	20cm		※
II種						
III種	25cm	25cm	5cm	12cm	15cm	40cm

※地盤が軟弱な場合や盛土をする場合は、路床の構築を行う必要があります。

- 種別は、乗り入れる車種の最大のものを適用してください。
- コンクリート舗装の場合、コンクリート舗装要綱に基づき行ってください。生コンクリートの呼び強度（設計基準強度）は、 $\sigma 28 = 21 \text{ N/mm}^2$ 以上とし、メッシュ筋を設置してください。
- アスファルト舗装の場合は、アスファルト舗装要綱に基づき行ってください。
- 路床土は、**良質レキ混り土（CBR ≥ 20%）**を使用してください。

- 施工箇所付近で道路改良計画等がある場合は、その計画等に基づき施工を指示する場合がありますので、道路管理者と事前に協議が必要です。

表3 側溝表

種別	側溝本体	側溝蓋
I種	既設側溝の使用可	コンクリート製、グレーチング（2t対応以上）
II種	既設側溝が現場打ち若しくは歩道用の場合は、車道用の落蓋型側溝又は自由勾配側溝（横断用）を新設する。	コンクリート製、グレーチング（25t対応）
III種		

- I種であっても自動車の出入回数が多い場合はII種、III種の基準を適用してください。
- 原則として、側溝蓋にツバ付タイプのグレーチングや縞鋼板の使用は認められません。
- コンクリート製の側溝蓋を5m以上設置する場合は、5m毎にグレーチングの側溝蓋を1枚設置してください。
- 側溝を新設する場合で、駐車場等の敷地内除雪を重機によって行う場合は、横断用の側溝（角欠け防止用のアングル補強付き）にしてください。